

2018 年度

国際日本学部演習案内

School of Global Japanese Studies

明治大学

Meiji University

目 次

ゼミナール（演習）とは何か	1
1. 演習入室試験受験上の注意	2
2. 2018年度 国際日本学部 演習担当教員一覧	3
3. 演習入室選考試験日程	4
演習概要（教員別）	
01 Kathleen Allen	5
02 Svetlana Vassiliouk	6
03 大須賀 直 子	7
04 尾 関 直 子	8
05 鹿 島 茂	9
06 蟹 瀬 誠 一	10
07 金 ゼンマ	11
08 小 林 明	12
09 小 森 和 子	13
10 佐 藤 郁	14
11 白 戸 伸 一	15
12 鈴 木 賢 志	16
13 瀬 川 裕 司	17
14 田 中 牧 郎	18
15 旦 敬 介	19
16 張 競	20
17 長 尾 進	21
18 沼 田 優 子	22
19 萩 原 健	23
20 姫 野 伴 子	24
21 廣 森 友 人	25
22 藤 本 由 香 里	26
23 眞 嶋 亜 有	27
24 溝 辺 泰 雄	28
25 美濃部 仁	29
26 宮 本 大 人	30
27 森 川 嘉 一 郎	31
28 師 井 勇 一	32
29 山 脇 啓 造	33
30 横 田 雅 弘	34
31 渡 浩 一	35
32 R y a n W a r d	36
4. 演習入室試験申込手続きについて	37

ゼミナール（演習）とは何か

国際日本学部長
横田 雅弘

私は、大学での学びの真骨頂はゼミであると思います。なぜなら、ゼミは「主体的に学ぶ」という大学での学びのスタイルが最も強く求められるものだからです。ゼミでは、指導教員が示す大きなテーマに関心を寄せる仲間が集まり、20人を超えない小さなグループで、個々の学生が自ら設定する具体的なテーマに沿って活動していきます。ゼミによってその運営の仕方は多様ですが、与えられた課題をこなすのではなく、自らの興味をゼミの仲間や教員に投げかけ、コメントをもらいながら関連の本を読んだり、データを集めたりして深めていくという基本は共通しています。自分の疑問や関心からスタートした課題が深まってくると、人間はさらにそれを追求していきたくくなります。こうなると、ちょっと面白そうだという程度では感じる事のなかった探求心が湧き上がってくる。これが主体的な学びを発動させるドライブであり、より高い完成度を求めて苦悩するエネルギーになるのです。それは、単に面白いことをやるというだけではありません。この違いは、ゼミ活動の結果をまとめて作品（卒業論文など）に仕上げていく最後のプロセスによく表れています。すなわち、自分のやってきた活動について自己と対話し、省察し、ゼミの仲間やより専門的な知識と経験をもつ教員からのコメントを受け、推敲に推敲を重ねて自分が納得する言葉に表現していくという生みの苦しみを味わう最後のステージです。これは自分一人でやろうとしてもなかなかできるものではありませんから、そこにゼミの大きな意味があるのです。しかし不思議なことに、一度この体験をすると、社会に出て新しい課題に出会ったとき、それを面白そうだと感じて立ち向かっていく勇気が湧いてくる。自分一人でも、あの時ゼミでやった身体感覚が再び目覚めてくるのです。「自分は大学で何を学んだのか？」と自問自答する時、その回答の多くがこのゼミ活動に見出されるのは、このような身体感覚を身につけるからだと言えるのではないのでしょうか。

一方、ゼミの仲間たちが互いに助け合い、時には真剣に考えをぶつけ合い、教室で、居酒屋で、合宿で、時に寝食を共にしながら友人としての深いつながりを築くことも、ゼミの活動を忘れがたいものになっています。先に述べた主体的な学びの経験が、ゼミのメンバーが互いに触発し合い、切磋琢磨することによって同時に起こってくるひとつのシナジーの経験であることが、この学びを格別のものになっているのです。

国際日本学部の先生方は、専門は多様ですが、それぞれその道の優れた研究者であり、ゼミ活動は魅力に溢れています。この学部では、ゼミは必修ではありませんが、多くの皆さんがゼミに参加し、おおいに自らの『個』を鍛え、大学で学ぶ醍醐味を味わっていただけたらと思います。

1. 演習入室試験受験上の注意

演習入室を希望する者は、10月7日（土）に行われる全体ガイダンスに出席の上、希望する演習の個別ガイダンスに参加し、理解を深めた上で入室試験を受験してください。なお、受験にあたっての注意事項は以下のとおりです。

- 1 各演習の募集人員は、10～21名です。
- 2 入室試験の申し込みは、Oh-o!Meiji ポータルページに配信されるアンケートを利用して、各期限内に手続きをしてください。（但し三次試験は別）。
詳細は 37 ページ以降を確認してください。（締切厳守。期限を過ぎた場合、申し込みをすることはできません。）
- 3 演習入室試験日程等演習に関係する重要なお知らせはすべて Oh-o!Meiji ポータルページへ配信します。演習入室試験実施期間中は、随時確認するようにしてください。
- 4 受験後に演習を変更することはできません。
- 5 同一募集期間内に複数の演習を受験した者は、すべて無効（不合格）となります。
- 6 合格が決定した者は、それ以降の受験資格を失います。ただし、4月に募集する演習への入室試験に限り、既に合格が決定した演習の担当教員の了承を得たうえで、受験することが認められます。
- 7 4月に募集する演習に入室を希望する場合も今回の演習入室試験を受験することは原則可能です。ただし、もし今回の演習入室試験に合格した上で4月に募集する演習を受験するためには、既に合格が決定した演習の担当教員の了承を得なければなりません。
4月に募集する新任教員等の演習入室試験の受験を希望している場合は、今回受験する予定の教員に、個別ガイダンス等を利用して、事前にその受験の可否について必ず確認して下さい。
- 8 担当者の都合で3年次のみ開講する場合があります。対象となる演習はガイダンスでお知らせします。

2. 2018年度 国際日本学部 演習担当教員一覧

コード番号	氏名	職名	担当科目
01	Kathleen Allen	教授	英語学
02	Svetlana Vassiliouk	准教授	国際関係論
03	大須賀直子	教授	言語と文化
04	尾関 直子	教授	応用言語学
05	鹿島 茂	教授	フランス文化論
06	蟹瀬 誠一	教授	メディア研究概論
07	金 ゼンマ	准教授	アジア太平洋政治経済論
08	小林 明	准教授	国際教育交流論
09	小森 和子	准教授	日本語教育学
10	佐藤 郁	講師	ツーリズム・マネジメント
11	白戸 伸一	教授	日本流通史
12	鈴木 賢志	教授	日本社会システム論
13	瀬川 裕司	教授	映像文化論
14	田中 牧郎	教授	日本語学
15	旦 敬介	教授	ラテンアメリカの歴史と文化
16	張 競	教授	比較文化学
17	長尾 進	教授	武道文化論
18	沼田 優子	特任准教授	経営学
19	萩原 健	教授	舞台芸術論
20	姫野 伴子	教授	日本語教育学
21	廣森 友人	教授	心理と言語
22	藤本 由香里	教授	漫画文化論
23	眞嶋 亜有	講師	日本表象文化論
24	溝辺 泰雄	准教授	世界のなかのアフリカ
25	美濃部 仁	教授	宗教と哲学
26	宮本 大人	准教授	アニメーション文化論
27	森川嘉一郎	准教授	日本先端文化論
28	師井 勇一	特任講師	平和学
29	山脇 啓造	教授	多文化共生論
30	横田 雅弘	教授	異文化間教育学
31	渡 浩一	教授	日本の文化伝統
32	Ryan Ward	講師	比較宗教論

* 2017年9月19日現在の一覧です。担当者が変更となる場合もありますので、必ず全体ガイダンスで確認してください。

3. 演習入室選考試験日程

*以下の流れで選考試験は実施されます。

- 1 全体ガイダンス 10月7日(土) 10:00～12:30
[低層棟 ホール]
- 2 個別ガイダンス 10月7日(土)～13日(金)
[日時及び会場は別途アナウンスします]
- 3 入室選考試験
 - (1) 一次募集
 - ①申込受付 10月13日(金) 9:00～10月17日(火) 10:00
[申込方法] Oh-o! Meiji ポータルページのアンケート機能
 - ②選考試験 10月28日(土) 10:00～
[試験会場] Oh-o! Meiji で確認すること
 - ③合格発表 10月31日(火) 13:00
[発表場所] 高層棟1階インフォメーションボード
 - (2) 二次募集
 - ①個別ガイダンス 11月6日(月)～11月9日(木)の昼休み, 5限
 - ②申込受付 11月10日(金) 9:00～11月13日(月) 10:00
[申込方法] Oh-o! Meiji ポータルページのアンケート機能
 - ③選考試験 11月18日(土) 10:00～
[試験会場] Oh-o! Meiji で確認すること
 - ④合格発表 11月20日(月) 13:00
[発表場所] 高層棟1階インフォメーションボード
 - (3) 三次募集
 - ①申込受付 事前の申し込みは不要です。二次合格発表時に選考試験の概要をお知らせしますので、その指示に従ってください。
 - ②選考試験 11月21日(火)～11月30日(木)の期間中いずれか1日
[試験会場] 日程及び会場の詳細は掲示板で確認すること。
 - ③合格発表 各演習の先生に試験当日に確認してください。

*各演習の概要については、次ページ以降を確認してください。

01 Kathleen Allen 教授

1. 演習のテーマ

Discourse Analysis of Popular Media

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

The following topics will be covered:

Approaching cultural and media studies; Signs and systems; Interactions of signs; Texts and textualities; Genre and intertextuality; Narrative. Examples from popular media, such as advertisements, manga, comics, anime, movies, and TV programmes will be used to explain concepts and methods.

<4年次>

The following topics will be covered:

Discourse and the media; Language and ideology; Systems and strategies; Other approaches and other contexts. Examples from popular media, such as advertisements, manga, comics, anime, movies, and TV programmes will be used to explain concepts and methods.

(2) ゼミ論の有無

Yes.

(3) 評価方法

3rd Year: Presentations (30%); Class Participation (30%); Portfolio (40%).

4th Year: Presentations (20%); Class Participation (20%); Thesis (60%).

3. 使用テキスト

Tony Thwaites, Lloyd Davis & Warwick Mules. *Introducing Cultural and Media Studies: A Semiotic Approach*. Basingstoke, UK: Palgrave Macmillan.

4. 応募学生に望むこと

This seminar will be in English only.

5. 選考方法

If there are more than 20 applicants, the students will need to write a short report in English describing their interest in the seminar theme.

6. 演習入室までに学習してほしいこと

7. その他

Seminar events will be announced in class.

02 ヴァシリューク, スヴェトラーナ 准教授

1. 演習のテーマ

“International Relations in Northeast Asia with the focus on Japanese Foreign Policy”

This seminar offers lectures, discussions, and readings reflecting on contemporary international relations in Northeast Asia (NEA), with a special focus on Japan’s foreign policy. Topics covered include: Japan’s participation in the military conflicts of the late 19th-early 20th centuries; Japan’s Pacific War (1937-1945); key issues in Japan’s postwar relations with major powers in the region; and the impact of the declining power of the US in regional and global affairs. In the course of two years, students will participate in field trips, attend public talks, and prepare reports and news analyses pertaining to the topics covered in class.

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>: This seminar will begin with an overview of Japan’s history of foreign relations, providing students with the historical frameworks for explaining and understanding Japan’s contemporary international relations in NEA. The seminar lectures, discussions, and readings will focus on a variety of core topics, such as: imperialism in NEA and Japan’s participation in major military conflicts of the 19th-early 20th centuries; Japan’s Pacific War (1937-1945); the core issues in Japan’s relations with key powers in the region; the rise of “the rest” and the emerging new world order.

<4年次>: The following topics will be covered: the impact of the declining power of the US in the regional and global perspectives; the origins of Japan’s major territorial disputes in NEA; history of the dispute negotiations and overview of the most feasible approaches to the settlement of Japan’s territorial issues; and the future prospects for Japan’s relations with the key powers in NEA. At the end of the 4th year, students will write and present a research paper (thesis) covering one of Japan’s territorial disputes or any other controversial issue in Japan’s foreign relations in NEA.

(2) ゼミ論の有無: Yes

(3) 評価方法

3rd year:

News Portfolio 30%; Briefing paper 30%; Summaries 20%; General Class Participation 20%

4th year:

Thesis 60%; Presentations 20%; General Class Participation 20%

3. 使用テキスト

REQUIRED BOOKS:

(3B), (4A): Fareed Zakaria, “The Post-American World” (Release 2.0 Edition), 2011.

RECOMMENDED BOOKS:

(3A): James L. McClain “Japan: A Modern History,” W.W. Norton & Company: New York, 2002;
Jeff Kingston, “Contemporary Japan,” Wiley-Blackwell, 2011.

(4B): Thomas J. Schoenbaum, “Peace in Northeast Asia,” Edward Elgar: Cheltenham, UK, 2008.

In addition, various handouts will be distributed in class as needed.

4. 応募学生に望むこと

1). The seminar sessions will be in English only. Students should have adequate English language skills to do well in this course.

2). Students are required to attend seminar sessions regularly. Any student, who is absent FOUR or more times, except absences due to the documented emergencies, will receive a failing grade.

5. 選考方法

The students will have to write a short essay in English describing their interest in this seminar.

6. 演習入室までに学習してほしいこと

It is highly desirable that the students have completed basic courses in Political Science and/or International Relations prior to taking this seminar.

7. その他

Seminar events and additional information will be announced in class.

03 大須賀 直子 教授

1. 演習のテーマ

翻訳を通して考える言語と文化

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

実際に翻訳をおこなうことが中心となります。春学期は、児童文学、ヤングアダルト、ミステリーなど数冊の本を訳して翻訳技術を磨きます。また、各自が翻訳したい本（未訳のもの）を一冊選び、シノプシス（一種の企画書）を作成し、プレゼンテーションをおこなって秋学期に共同で翻訳する本を選びます。秋学期は、完成度の高さにこだわって、1冊の本を完訳し、製本します。また、受講者の希望によって、翻訳に関する文献講読をおこない、研究発表をしていただくこともあります。

<4年次>

各自がテーマを決めて翻訳または翻訳に関連する研究をおこない、発表します。

(2) ゼミ論の有無

1冊の本の翻訳をおこなうか、または翻訳に関連する研究論文を書きます。

(3) 評価方法

<3年次> 平常点（20%）、発表（30%）、翻訳（50%）でおこなう。

<4年次> 平常点（20%）、発表（20%）、翻訳/論文（60%）でおこなう。

3. 使用テキスト

授業内で相談をして決めます。

4. 応募学生に望むこと

担当である・なしにかかわらず、翻訳の課題は必ずやってくる。課題の締め切りを守る。授業内では積極的に発言すること。無断欠席は厳禁。

5. 選考方法

筆記試験と面接。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

演習担当教員の学部科目「言語と文化A・B」をなるべく履修しておくことが望ましい。

7. その他

夏休みに合宿をおこなう予定です。

04 尾関 直子 教授

1. 演習のテーマ

第二言語習得と言語教育

第二言語習得と言語教育について勉強します。「日本語は文法を知らなくても話すことができるのに、英語は文法を知っていても話すことができないのはなぜだろう?」「どうして、あの人は語学が得意なのに、私は語学が苦手なんだろう?」「早期英語教育は効果的なのだろうか?」「どのように教えれば、生徒の英語は上達するのだろうか?」「そういう質問に答えてくれるのが第二言語習得理論です。教師を目指している学生、言語の効果的な教授法、言語の学習方法、言語に関する国家政策など、言語に関係のあることに興味のある学生、英語が好きな学生にとっては楽しい学問です。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

授業はすべて英語です。毎週、教科書の担当部分について、少人数のグループ、またはペアで発表します。発表する内容は、担当部分の要約、その内容に関して調べてきたこと、担当部分に関しての自分たちの意見や考えです。また、内容に関して、ゼミでディスカッションができるトピックを提供することも必要です。発表担当以外の学生は、教科書の内容に関しての意見や考えをジャーナルに書いてくるのが毎週の課題となります。

授業の最初に、ジャーナルを交換し、お互いのジャーナルにコメントを書き、その後、発表担当者が発表をし、グループごとにディスカッションをします。授業は、プレゼンテーションやディスカッションが中心となるので英語力のアップも同時に期待できます。

<4年次>

就職活動があるので、自分のペースでゼミ論（卒論）を書きます。また、1か月に1度くらいの割合で卒論について発表します。卒論のテーマは、「第二言語習得」に関するだけでなく、「言語」、「国際」、「コミュニケーション」に関係していることがテーマであれば、かまいません。また、卒論は英語で書いても、日本語で書いてもかまいません。

(2) ゼミ論の有無 有り

(3) 評価方法

<3年次>ディスカッションや授業への参加 50%, プレゼンテーション 30%,
ジャーナル・ライティング 20%

<4年次>プレゼンテーション 30%, ゼミ論（卒論）70%

3. 使用テキスト

Brown, D. B. (2014). *Principles of language learning and teaching*. White Plains, NY: Pearson.

4. 応募学生に望むこと

ゼミでは、友達と助け合いながら学習します。ただし、ゼミは、勉強する場であるだけでなく、友達と共に人間的にも成長していく場であって欲しいと考えています。従って、ゼミ合宿、国際交流（留学生との交流）などに積極的に参加したいと考える、やる気がある誠実な学生は大歓迎です。また、卒論や就職を真剣に考えることが出来る学生を希望します。

5. 選考方法

アンケートと面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。 **It is never too late to learn.**

7. その他

ゼミの教科書は、内容も英語もさほど難しくありませんが、英語を常に使うので。ゼミを1年終えたころには、すべての英語の技能（スピーキング、リスニング、ライティング、リーディング）が上達しているはずですが、もし、授業で、わからないところがあれば、積極的に質問してください。質問は大歓迎です。夏休みにはゼミ合宿をして、研究成果をグループで発表してもらいます。合宿は3年生、4年生と合同の合宿になります。勉強をしっかりとしながら、楽しいゼミと一緒にしていきましょう！

05 鹿島 茂 教授

1. 演習のテーマ

エマニュエル・トッドの著作を読む。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

人口動態学と家族構造の分析によって世界観を一変させたエマニュエル・トッドの著作を読んでいきます。

<4年次>

民俗学者柳田國男の著作を読んでいきます。

(2) ゼミ論の有無

有り

(3) 評価方法

平常点 (30%) 発表 (30%) レポート (40%)

3. 使用テキスト

<3年次>

エマニュエル・トッド「家族システムの起源」(藤原書店)

エマニュエル・トッド「世界の多様性 家族構造と近代性」(藤原書店)

<4年次>

柳田國男「新版遠野物語」(角川ソフィア文庫)

4. 応募学生に望むこと

歴史と地理に興味のある学生を望む。

5. 選考方法

筆記試験と面接

6. 演習入室までに学習してほしいこと

柳田國男およびエマニュエル・トッドの概説書を読んでおくこと。

7. その他

06 蟹瀬 誠一 教授

1. 演習のテーマ

『豊かな社会とメディア』

米社会学者デビッド・リースマンが「何のための豊かさか (ABUNDANCE FOR WHAT?)」を出版したのは1964年のことだった。しかしそれ以前から私たちは豊かな社会の理想像を求め続けており未だに答えを見いだせずにいる。本当に豊かな社会とは何か。そしてメディアはその実現にどのような役割を果たすのかあるいは果たしてこなかったのかを共通のテーマとして考える。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

参加者が数人のチームに分かれて議論、リサーチ、発表をする形式で進める。各チームがそれぞれ与えられた、または選択した、具体的テーマについて発表日までにレジュメなどを準備して発表。教室ではその発表をベースに議論をする。本ゼミの狙いは、ゼミ参加者の議論を通じて、真に豊かな社会とは何かとその実現プロセスでのメディアの役割を多角的視野から理解することにある。

<4年次>

4年時は、より専門的な調査研究を行うとともに、論文執筆のための文献検索や資料分析についても学ぶ。グループワークも継続するが、各個人でも調査分析も行う。

(2) ゼミ論の有無

研究発表したものをゼミでの議論を踏まえて整理し、各参加者またはグループが責任分担する形で一冊の報告書にまとめる。

(3) 評価方法

<3年次> 平常点 (30%)、授業参加度 (30%)、発表 (40%)

<4年次> 平常点 (30%)、授業参加度 (20%)、論文貢献度 (50%)

3. 使用テキスト

ゼミの進行具合に合わせて、開講の際に紹介する。

4. 応募学生に望むこと

広く政治、経済、社会、歴史、文化の諸問題に強い関心を持ち、真摯な態度で、授業に積極的に参加する学生が望ましい。

5. 選考方法

本ゼミで研究した具体的なテーマをA4用紙1～2枚程度にまとめて事務室に提出。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

世界の国々の政治経済情勢に興味を持ち、日々のニュースに接しておくこと。とくに世界に広がる格差の問題に注目してほしい。

7. その他

必要に応じて、学生主導の交流会や合宿などもおこない、研究発表だけでなく参加者間の親睦も深めたい。

07 金 ゼンマ 准教授

1. 演習のテーマ

グローバル化とアジア太平洋地域の政治経済

アジア太平洋地域における政治経済を勉強するゼミです。本ゼミでは、二国間自由貿易協定(FTA)、ASEAN+3、環太平洋経済連携協定(TPP)など重層的に進展するアジア太平洋の地域統合への動向を踏まえ、リージョナリズムの現状と今後の課題について分析する視点を養います。さらにそうした視点を踏まえて、東アジアを含む広義のアジア太平洋地域における国際関係の変化やグローバル化への各国の政策的対応の相違と共通性について、論点の理解を深めることを目的とします。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

毎回、担当者2名が指定文献の担当内容についてレジュメを作成し、発表します。コメントータ2名は、文献に関連したコメントやディスカッションのための質問を提供します。報告レジュメは、報告の三日前までにはゼミのメーリングリストに送り、報告当日にディスカッションを全員参加で行えるようにします。報告とコメント、ディスカッションの使用言語は、英語でも日本語でもかまいません。

<4年次>

3年次で得た知識を踏まえ、各自の興味のあるテーマについて調査・研究を行い、卒業論文を作成します。二か月に一度の割合で卒論について発表し、ゼミでのフィードバックを通じて論文を修正・発展させていきます。卒論は、英語でも日本語でもかまいません。

(2) ゼミ論の有無

研究発表とゼミでの議論を踏まえて、ゼミ論を作成し提出していただきます。

(3) 評価方法

<3年次> 平常点(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)

<4年次> 平常点(20%)、プレゼンテーション(20%)、論文(60%)

3. 使用テキスト

適宜指示します(英語と日本語の文献)。

4. 応募学生に望むこと

いま、アジア太平洋地域の政治経済において何が問題となっているのか、知的好奇心を持って積極的にゼミに参加できる学生を望みます。

5. 選考方法

小論文(研究テーマ・応募理由)と面接(詳細は個別ガイダンスの際に指示します)。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

アジア太平洋地域の政治経済情勢に興味を持ち、日々の国際ニュースに接しておくことを期待します。

7. その他

本ゼミでは、実践的な視点を養うための、フィールドワークや合宿を行う予定です。韓国の高麗大学・延世大学・西江大学との合同ゼミがあるなどイベントが豊富で、頑張れば頑張るほど得るものが大きくなるゼミです。

08 小林 明 准教授

1. 演習のテーマ

国際教育交流の理解と実践

このゼミでは「国際教育交流は国際平和実現の礎」と位置付けて、国際教育の概念を理解した上で、学校教育における海外留学や交流プログラムなど国際教育交流の実態を調査し、国際教育交流の果たす役割や効果を学ぶとともに国家・地域間および文化間の平和的な共存を推進する理想的な国際教育プログラムを模索します。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

ユネスコの「国際教育の勧告」について学び、日本の取り組みを調べることで国際教育の理念と実際について理解を深めます。特に国内の中高等教育機関における国際教育交流の具体的な取り組み(留学プログラムやカリキュラムとその効果)について調査します。

<4年次>

海外大学の国際教育プログラムについて調査し、日本の調査結果と比較しながら理想的な取り組みやその効果について分析します。

その結果を踏まえて中高等教育における国際教育交流のあり方を構想します。

(2) ゼミ論の有無

無し(ただし E-book 等、何らかの形で成果を発表する。)

(3) 評価方法

<3年次> 平常点(40%)、発表(30%)、レポート(30%)で行う。

<4年次> 平常点(30%)、発表(30%)、レポート(40%)で行う。

3. 使用テキスト

『大学の国際化と日本人学生の国際志向性』

横田雅弘・小林明編 発行：学文社

4. 応募学生に望むこと

国際教育交流および異文化感性の向上に興味を持ち、積極的にゼミに参加できること。

無断欠席、遅刻は厳禁で、海外研修費(約15万)を自力で捻出する気力がある者。

5. 選考方法

筆記試験と面接(詳細は個別ガイダンスの際に指示します。)

6. 演習入室までに学習してほしいこと

学部開設科目の「海外留学入門 AB」「国際教育交流論 AB」を履修しておくことが望ましい。

7. その他

夏休み又は春休みに3、4年生合同で3泊4日程度のゼミ合宿研修を行う。場所は研修内容により海外で実施することもある。

09 小森 和子 准教授

1. 演習のテーマ

第二言語としての日本語の語彙習得

日本語では「薬を飲む」と言うのに、中国語では「吃（食べる）药」と言い、英語では「take（とる）medicine」と言います。＜薬を体内に入れる＞という同じ現象を表すのに、使う動詞は言語によって異なることがあります。また、それを知らずに、自分の母語を文字通りに第二言語に翻訳すると、「*薬を食べる」のように、不自然な表現になってしまうこともあります。そこで、本演習では、日本語と他の言語を比較・対照し、語の意味や用法の異同と、なぜそのような違いが生まれるのか、について考察します。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

春学期は、言語学、認知言語学、第二言語習得、日本語教育などの複数の理論を学び、日本語学習者がどのような間違いを起こすのか、それはなぜか、考えます。

秋学期は、受講生全員でテーマを設定し、留学生を対象に調査を行います。

<4年次>

春学期は、調査研究方法論を学びます。秋学期は、受講生が各自で、あるいはグループで研究テーマを設定し、調査とその分析をします。

(2) ゼミ論の有無

有り

(3) 評価方法

出席と議論への参加（20%）、発表（30%）、レポート（3年次）・論文（4年次）（50%）。

3. 使用テキスト

靱山洋介（2009）『日本語表現で学ぶ 入門からの認知言語学』研究社他、授業時に指定。

4. 応募学生に望むこと

言語が好きな人、言語学を基礎から学びたい人、将来海外で日本語を教えてみたい人、日本語と英語・中国語・韓国語を比較したい人、大学院に進学したい人、大歓迎です。

5. 選考方法

筆記試験と面接

6. 演習入室までに学習してほしいこと

ゼミ入室までに学部開設科目の「日本語教育学」はぜひ履修しておいてください。

7. その他

10 佐藤 郁 専任講師

1. 演習のテーマ

世界と日本のツーリズム

本演習の目的は、身近な観光という現象を通じて、世界の中の日本、日本から見た世界について理解を深めることです。同時に、フィールドワーク、グループワークやプレゼンテーションを通じて、様々な立場や範囲から物事をみる視点、背景の異なる他者とのコミュニケーションスキル、役割分担や立場理解の力を養います。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

- 前半は、観光に関わる企業や行政機関と連携して施設見学や座談会等を実施し、観光の役割やターゲットに合わせた観光情報の発信の仕方について学びます。さらに、4～5名のグループ単位で、中野区内でフィールドワークを実施し、地域の観光資源を発掘して、その魅力を訪日外国人観光客に向けて発信してもらいます。
- 後半からは、課題解決型のプロジェクト学習が中心となります。提示された課題に基づき、中野区で訪日外国人観光客を対象にしたデスティネーションプロジェクトの企画・立案をグループに分かれて行います。最後に、観光に関わる企業や行政機関の方々に向けてコンペ形式のプレゼンテーション大会を実施します。グループワークは、観光の「力」を最大限に引き出すための発想やイメージーション、課題のクリエイティブな解決方法という観点を重視します。
- 最終レポートは、自身の参加したグループワークの成果と課題を、各個人で評価したものを提出してもらいます。(グループメンバーや作業に対する評価ではありません。課題を終えて、自分のグループの企画について、まだ議論の余地があると思う部分や、素晴らしいと思う点などを個人で評価してください。詳しくは授業内で説明します。)

<4年次>

観光に関するテーマを各自で設定し、最後にゼミ論をまとめる。全体で構想発表、中間発表および最終発表会を実施します。

(2) ゼミ論の有無

有

(3) 評価方法

3年次：平常点(40%)、グループ発表及び議論への貢献度(30%)、最終レポート(30%)によって総合的に評価する。

4年次：平常点(10%)、発表(30%)、論文(60%)によって総合的に評価する。

3. 使用テキスト

特に指定しない。その都度必要なものを配布する。

4. 応募学生に望むこと

地理の基礎的な知識があることが望ましい。(3年次は特に)グループワークによるプロジェクト型学習が中心となるので、フットワークが軽く、チームでの作業に積極的に取り組める方を歓迎します。また、授業時間外にチームで主体的に活動することも多くなりますので、それを前提に履修するようにしてください。授業時間外で地域視察などを行う場合もあります。何事にも積極的に参加できる方を希望します。

5. 選考方法

筆記試験及び面接。2年次春学期までの成績も参考にする。

(詳細は個別ガイダンスで説明します)

6. 演習入室までに学習してほしいこと

「ツーリズム・マネジメントAB」を履修しておくことが望ましい。

7. その他

受講生の数や要望、理解度を考慮し、若干内容を変更する場合があります。

11 白戸 伸一 教授

1. 演習のテーマ

流通・マーケティング戦略とまちづくり

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

2つのテーマで共同研究します。第1は日本の流通・マーケティングの特質、強みをケース・スタディと発達史から学びとること、第2は21世紀の課題と言える現代都市の「まちづくり」を流通面から検討することです。日本では、総合商社や「オムニ・チャンネル」を目指す大手小売企業、そして世界ランキング上位にも登場する有力企業がありますが、その特質やマーケティング戦略を検討します。その上で流通と市民生活の主要な場である魅力的でコンパクトなまちづくりについて、様々な事例を通して検討します。

3年次は主に文献や資料、さらには企業訪問等による研修を通じて研究を深め、その過程で各自もしくはグループで興味のある研究テーマを決めて、ケース・スタディ（事例研究）を含む研究に取り組んでもらいます。

<4年次>

国際比較を取り入れながら、個人またはグループごとに研究・調査を継続しつつ、ゼミでの中間報告をおこない、最終的にはゼミ論にまとめてもらいます。

(2) ゼミ論の有無

有り

(3) 評価方法

<3年次>平常点(40%)、発表(30%)、レポート(30%)

<4年次>平常点(25%)、発表(25%)、論文(50%)

3. 使用テキスト

『ケースで学ぶマーケティング [第2版]』井原久光 ミネルヴァ書房

『日本の流通・サービス産業 一歴史と現状一』廣田誠 大阪大学出版会

『地域の再生と流通・まちづくり』日本流通学会監 白桃書房

4. 応募学生に望むこと

自説を論文としてまとめ上げることができた時の達成感をぜひ味わってほしい。そして、ゼミという共同研究と青春の重要な出会いの場で、生涯忘れ得ぬ宝物を見つけてほしい。

5. 選考方法

小論文と面接

6. 演習入室までに学習してほしいこと

社会や経済に関する時事問題に対し、事実関係を理解しつつ自分の意見が述べられるよう努力してほしい。

7. その他

ゼミ合宿及び必要に応じて企業訪問や調査をおこないます。

12 鈴木 賢志 教授

1. 演習のテーマ

スウェーデンに発信し、スウェーデンから学ぶ

本演習は、スウェーデンに焦点を当てた「国際日本学」の実践を目的とする。すなわち、①日本に興味を持つスウェーデンの人々とのコミュニケーションを通じて、彼らが日本をどのように認識しており、どのような情報の発信が望まれているのかを理解し体感する。さらに②スウェーデンから日本が何を学べるのか、また日本の文化や社会システムの現状に照らして、実際にどこまで取り入れることができるのか、その可能性や限界について考察する。なお、今季は「政治意識」に焦点を当てる。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

春学期は、スウェーデンについての基本的な知識を吸収しつつ、スウェーデンの人々との交流や大使館でのイベントなどの様々な機会において、スウェーデンの人々が日本や日本人をどのように認識しているのか、どのような情報が求められているのかを、実践を通して学んでいく。秋学期は、春学期の経験を踏まえて、スウェーデン大使館において「日本の若者の意識」を軸にした英語による研究発表を行うべく、その準備を行う。

<4年次>

春学期は、スウェーデンから日本が何を学べるのか、また日本の文化や社会システムの現状に照らして、実際にどこまで取り入れることができるのかについて議論し、それをどのような形で卒業発表に結実させるかについて討議し、計画を策定する。秋学期は、策定した計画に基づき、スウェーデン大使館において、主にスウェーデンに興味を持っている日本人を対象として行われるスウェーデン社会研究所のセミナーとして卒業発表を行うべく、その準備を行う。

なお授業では、スウェーデンと日本の現状や社会システムについての解説や、スウェーデンの人々とのコミュニケーションや研究に役立つよう、初歩的なスウェーデン語の講義を織り交ぜていく予定である。

(2) ゼミ論の有無

上記のゼミ活動を通じて得た知識をもとに論文執筆を希望する者については指導を惜しまないが、執筆を必修とはしない。

(3) 評価方法

各期の発表、レポート、および授業への取り組みを考慮に入れて評価する。

3. 使用テキスト

特に指定しない。

4. 応募学生に望むこと

ゼミの活動は、スウェーデン大使館のイベント参加など様々な広がりをもって行うので、座学に限らず、何事にも積極的に取り組む方の参加を望む。

5. 選考方法

小論文(応募理由)の評価を中心に、2年次春学期までの成績を参考にしつつ選考する。場合によっては面接を実施する。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

鈴木担当科目を履修している方が望ましい。

7. その他

13 瀬川 裕司 教授

1. 演習のテーマ

高度な批評能力を身につける

本を読んだあと、あるいは映画を観たあとに、「面白かった」「つまらなかった」といったカタコトの〈感想〉ではなく、自分の意見を論理的に展開できる大学生は少ない。〈コメント力〉あるいは〈批評力〉は社会人になってからも重要なものだが、わが国の学校教育では、この能力の養成は軽視されてきた。このゼミでは、小説、演劇、映画、絵画、音楽などあらゆる対象に的確な言葉で批評をおこなえる能力を養うことを目標とする。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

毎回の授業に対してひとつの映画作品、小説などを指定する。参加者は、授業日までにその作品に接し、資料を見るなどして批評文を用意する。授業時には、参加者はたがいの批評を比較して意見を交換し、分析能力の向上をめざす。参加者の希望に応じて、演劇や音楽なども考察の対象とする。映画がテーマとなる場合は、たとえば〈ミュージカル映画〉、〈タランティーノの監督作〉等のテーマを決めて何本かの作品を続けて研究したい。

<4年次>

各参加者が、中心に据えて研究したい映画作家・小説家・ジャンル・アーティスト等のテーマを決めてゼミに臨む。毎週の授業では、ひとりもしくはふたりが自身のテーマに関連する批評文・レポートを提示し、口頭発表をおこなったのち、全員でその内容について意見を交換する。必要な場合には、授業時間中に関連作品をDVD等で鑑賞する。最終的に、そういった発表をまとめるかたちで年度末にゼミ論が提出されることが望ましい。

(2) ゼミ論の有無

参加者は原則として学年末にゼミ論を提出してほしいが、ゼミ論執筆を希望しない場合は、レポート提出、口頭発表等で代用できる。

(3) 評価方法

<3年次> 毎回授業時の批評文および発表で評価する。

<4年次> 毎回授業時の発表（65%）、学期末のレポートもしくはゼミ論（35%）で評価する。

3. 使用テキスト

授業時に指示する。

4. 応募学生に望むこと

映画や文学、演劇など国内外の文化全般に関心があり、文章を書くのが好きで、積極的に意見を述べられる学生、もしくはそのようになりたいと考える学生が望ましい。

5. 選考方法

必要な場合には、アンケートなどを実施する場合もある。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

蓮實重彦氏の映画関係の著作を演習開始前に2冊程度読んでおくことが望ましい。

7. その他

希望するゼミ生には、「ドイツ映画祭」（開催されない場合もある）の運営にボランティア・スタッフとして関わってもらいたい。

14 田中 牧郎 教授

1. 演習のテーマ

日本語の歴史と現在

日本文化の基本であり、日本社会がよって立っている「日本語」を、歴史的視点を踏まえて研究します。3年次では、どのような歴史を経て現在の日本語の姿になってきたかを研究し、4年次では、現代社会と日本語の関連を研究するとともに、各自の研究を卒業論文にまとめていきます。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

日本語は、原始時代に日本列島に住み着いた人々の話し言葉として始まり、漢文と出会って書き言葉を持ったことで、平安時代までに言語文化を花開かせ、世界に誇る『源氏物語』を生み出しました。明治時代には西洋語の翻訳や、文体改革を経て、近代的な言語に変貌しました。日本語の変遷の具体的過程を、文献調査（古典を読む）、コーパス調査（データベースを調べる）、フィールド調査（話し言葉を聞き取る）の方法論を身に付けながら研究します。これらを通して、日本語の研究方法を身に付けていきます。

<4年次>

現在の日本語を、例えば、作家や政治家の言葉は、どのようにして読み手や聞き手の心に届く（届かない）のか、報道や広報の言葉は、不特定多数の大衆に伝わるように、どのように工夫されている（工夫が足りない）のかなど、社会と日本語の関わりについて具体的な事例を取り上げて調査・分析していきます。また、各自が取り組む個別のテーマを決め、卒業論文にまとめます。

(2) ゼミ論の有無

有り。

(3) 評価方法

3年次、4年次とも、ゼミ活動への参加状況とレポートを総合して評価します。

3. 使用テキスト

テキストと参考図書などは、その都度指示します。

4. 応募学生に望むこと

よく調べ、よく考えることを求めます。

5. 選考方法

面接によって選考します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

古典に親しむ、外国語と日本語を比べる、ニュースの言葉に関心を持つ、言葉遣いに敏感になることなどで、日本語研究への動機づけを高めておいてください。

7. その他

夏休みに国内で合宿を行う予定です。大学院生と共同の研究活動も行います。

15 旦 敬介 教授

1. 演習のテーマ

Creative Reading, Creative Writing

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

一定の課題設定のもとで文学作品の講読を行ない、その作品の潮流や特質についての見解を深める。世界文学の主に20世紀の小説作品を読み、そこで用いられている方法について議論を通じて探究する。

並行して毎月一本ずつ、参加者がエッセイやフィクション、批評文等を一定の課題設定のもとで書いて、参加者で批評する。一年間で書きためたものをもとに、すぐれたものをゼミ内で選抜し、印刷物ないし電子出版物として作成し、配付・販売・流通させる。その方法の検討もゼミの課題の一部となる。

参加者の特性によっては、文学作品の翻訳についての考察や、指導、実践ワークショップを行なう場合もある。

<4年次>

基本的に3年次と同内容を継続する。

(2) ゼミ論の有無

修了制作を行なう。作品の制作あるいは批評的文章とする。

(3) 評価方法

<3年次> 授業内活動への参加度 80%、著作物の評価 20%

<4年次> 同

3. 使用テキスト

次のような作者の作品を読みたいと考えているが、それに限定されるわけではない。Woolf, Faulkner, García Márquez, Vargas Llosa, Rulfo, Carpentier, Rhys, Bolaño, Powers, Le Clézio, Achebe, Tutuola, Okri, Machado de Assis, Puig. 2018年度はラテンアメリカの文学作品を読む予定。バルガス=リョサ『ラ・カテドラルでの対話』、マヌエル・プイグ『赤い唇』など。

4. 応募学生に望むこと

外国文学から学びたいという気持ちのある人を求む。企業の歯車になる以外の人生のあり方を構想せよ。

5. 選考方法

筆記試験と面接による。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

文学作品を読んだことのない人は参加資格がない。ラテンアメリカの文学作品をひとつは読んでみて味わってきてほしい。

7. その他

受講希望者はかならず説明会に参加すること。なんらかの事情で説明会に出られない場合には個別に連絡すること。International students can participate using English as main language.

16 張 競 教授

1. 演習のテーマ

比較文学・比較文化特別研究

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

この演習は、将来卒業論文や卒業発表の作成を視野に入れ、比較文学比較文化に関する問題について研究を行う授業である。文学や文化の受容および変容、文化衝突の問題について、ゼミ生が自ら課題を見つけ、資料調査や社会調査などを行う上、その結果をゼミで発表することが求められる。ゼミでの議論を通して理解を深め、それを踏まえて最終報告をまとめる。そうした一連の作業を通して、基礎的な研究に必要な方法を身につける。

最初の一、二回ではテーマの設定、文献調査、資料収集、現場調査、データの処理、口頭発表、論文の執筆の時期や基礎的な作業の方法および研究の進め方について勉強する。

スケジュールは基本的にゼミ生と議論の上で決める。まず、ゼミ生全員が共通するテーマについて役割を分担し、調査と発表を行う。その後、ゼミ参加者は各自に選定されたテーマについて、文献調査、資料収集あるいはフィールドワークをする。その結果について、中間報告を行う。それぞれの報告について、ディスカッションを行い、それを踏まえて調査研究を改善していく。

最後にゼミ参加者は自分の担当する部分について発表し、ディスカッションを行う。その間、自分が将来、卒論で何を取り上げたいか、考えておく。

<4年次>

この演習は3年次の継続で、ゼミ参加者は自分の設定したテーマについて研究を行う授業である。基本的な進め方は3年次と変わらないが、グループ作業の代わりに、個人を中心とする作業になる。春学期には中間発表が求められ、秋学期のはじめには原則として論文か卒業発表の草稿の提出が求められる。

(2) ゼミ論の有無

ゼミ論の提出が望ましい

(3) 評価方法

<3年次>平常点50%、発表50%

<4年次>平常点50%、発表および論文50%

3. 使用テキスト

必要なときに随時に指示。

4. 応募学生に望むこと

積極的に授業参加すること。

5. 選考方法

筆記試験と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと。

特になし。

7. その他

合宿等はゼミ生と相談の上決まる。

17 長尾 進 教授

1. 演習のテーマ

スポーツ・武道と「国際」

2020年に、夏季オリンピック・パラリンピックが東京で56年ぶりに開催されます。世界がいろいろな課題を抱えるなかで、日本や東京がこの五輪とどう向き合うかが注目されていますし、そのあり方を考えることは、ゼミとしての大きなテーマです。また、多くの日本文化がそうであるように、武道も‘国際’との関わりのなかで長い年月を経て作り上げられてきました。武道をめぐる国際的要素と日本的固有性について考えることも、ゼミのもう一つの大きなテーマです。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

スポーツや武道をめぐる国際的な諸事象のうち、各人の関心のあるテーマを選び、先行研究をチェックし、資料を集めて整理・分析し、学期ごとに中間発表やレポート提出を行います。

<4年次>

4年春学期は、3年次に提出した年度末レポートをベースに、さらに補足の資料収集・調査を行い、発表します。夏季休暇中に最終的資料収集を行い、それらをもとに秋学期は最後の中間発表を行い、論文としてまとめる作業に入り、12月末までに提出します。1月の授業は、3年生も交えてのゼミ論発表会および卒業生送行会となります。

(2) ゼミ論の有無

有り

(3) 評価方法

<3年次～4年春学期>発表(40%)、レポート(40%)、意欲(20%)で行います。

<4年秋学期>発表(30%)、レポート・論文(60%)、意欲(10%)で行います。

3. 使用テキスト

テーマに関わりのある資料や書籍、URLなどを、そのつど紹介します。

4. 応募学生に望むこと

ゼミだから出席だけしていれば、という考え方ではなく、授業の事前・事後においても各人がアクティブな学修をすることを望みます。自らのテーマについて徹底的に調べ考える、という意欲をもっている人のみ入室を許可します。

5. 選考方法

募集定員をめどに、スポーツ・武道研究についての意欲を見極めるための簡単な筆記試験と面接を行い選考します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

武道・武士道を研修対象とする人は、「武道文化論」A・Bを履修していることが望ましいですが、入室の条件ではありません。

7. その他

夏季、冬季、または春季の休暇中にゼミ旅行合宿(1泊2日または2泊3日程度)を行います。研修先は、皆さんと話し合って選定します。

18 沼田 優子 特任准教授

1. 演習のテーマ Theme

Japanese Business Organizations in the Global Market

This seminar offers a quasi-business experience with advice from business professionals as well as lectures and discussions. Third-year students will set up a virtual student company using an educational program created by one of the world's largest global non-governmental organizations established in 1919. The program has over 451,000 alumni worldwide. Fourth-year students will spend more time in the classroom, where they will link their experiences to academic theories and frameworks.

2. 授業内容 Activities

(1) 授業の進め方 Proceedings

<3年次 Third-Year Students> Students will set up a virtual student company, run a business, and liquidate it at the end of the year. Business practitioners, acting as external board members, will visit frequently to provide advice. At the end of the year, the students will organize the minutes from discussions by department, hold an annual shareholder meeting, and write an annual report before liquidating the virtual company. **<4年次 Fourth-Year Students>** Students will choose a topic related to their student company experience, read relevant papers and case studies, and present these in a way that bridges their experience with academic theories and frameworks. Case studies may also be used for class discussions. In addition, several classes will be spent mentoring third-year students regarding the student company.

(2) ゼミ論の有無 Thesis No.

(3) 評価方法 Evaluation **<3年次 Third-year students>** Class Participation (40%), Minutes (40%), Annual Report (10%), and Peer Evaluation (10%) **<4年次 Fourth-year students>** Class Participation (40%), Short Essays (30%), Presentation or an Equivalent Task (20%), and Peer Evaluation (10%)

3. 使用テキスト Text Books

To be announced. These will vary depending on the students' functional roles.

4. 応募学生に望むこと Requirements

The seminar sessions will be in English only. All materials, lectures, class discussions, presentations, and writings will be in English. However, Japanese speakers are also welcome, as many stakeholders such as suppliers are likely to be Japanese. It is up to the students' company policies to address how language barriers will be overcome. Indeed, this is a common challenge for international companies. To make this seminar more manageable for Japanese speakers, I am happy to provide Japanese support outside of the class. Since we will function like a business, we will have to meet frequent deadlines. Inefficient use of time may necessitate staying/working after hours.

5. 選考方法 Screening

If more than 20 students apply, you will need to create an English presentation that describes your business ideas, the functions in which you want to engage, and how you can contribute to the seminar.

6. 演習入室までに学習してほしいこと Academic Requirements for the Seminar

Business Administration A & B or Practicum in Global Japanese Studies C & D are not prerequisites, but most of the content covered in those courses will be applied to the operation of the student business.

7. その他

This syllabus/schedule is subject to slight changes depending on participant demographics, the schedule for non-lecture activities, and ongoing business events. Students may incur small out-of-pocket expenses.

19 萩原 健 Ken Hagiwara 教授

【注意 Notice】基本的に日本語で行いますが、英語の使用も歓迎します。Basically, this seminar will be held in Japanese, but English is highly welcome.

【Special note for German speakers】Während die Diskussionssprachen Japanisch und Englisch sind, ist es auch möglich, Arbeiten auf Deutsch zu schreiben.

1. 演習のテーマ Theme

“Performances” in Daily Life and Art Scenes

“I am sure I gave a good performance during the interview”. - Haven’t you heard such expression? But what is a “performance”? Doesn’t it depend on audiences, situations, countries or cultural contexts, whether a performance is good or bad? On the other hand, “performance” can be a genre of art. After watching the performance, writers report saying for example: “This performance was so bad it can be ignored.” “Performances” in daily life and art scenes - The one in daily life can serve as a reference when thinking about the one in art scenes and vice versa. This is the core concept of this seminar. Each student is expected to research a theme related to the term “performance.”

2. 授業内容 Activities

(1) 授業の進め方 Proceeding

Each student is required to write a statement based on her/his own interest and then write a thesis. The core activities in each session are reporting about working processes and exchanging opinions among the students.

<3年次 3rd Year>

[Spring semester] After some introductory activities in the first sessions, each member introduces a book or an article that interests her/him. Together with this book or article, 10 sources should be listed with comments. Then the students select quotes from the 10 sources (They should be used in the thesis) and write the statement (This will be the conclusion of the thesis). The source list with comments, quotes and the statement will be the term paper (A) which has to be submitted at the end of the semester.

[Fall semester] The members work on the structure of the thesis based on the term paper (A). A table of contents should be written including descriptions on the content of each chapter. After finishing the table of contents, each student starts writing the thesis. In the sessions, each student introduces a part of her/his thesis. Its content and next working steps will be discussed in class. The completed thesis has to be submitted at the end of the semester.

<4年次 4th Year>

Each student revises the submitted thesis by using 10 more sources, or writes a completely new thesis by using 20 sources. The working process is same as that of the third year.

(2) ゼミ論の有無 Thesis

Required

(3) 評価方法 Evaluation

<3rd Year> Contributions made during each session (30%), presentations (30%), thesis (40%)

<4th Year> Spring semester: same as during the 3rd year; Fall semester: Contributions during each session (20%), presentations (20%), thesis (60%)

3. 使用テキスト Textbook

Depending on each student’s research topic, references will be recommended in class.

4. 応募学生に望むこと Requirements

Active participation during class and doing homework are basic requirements. Being absent or being late for class without any prior notification will have an effect on students’ grades.

5. 選考方法 Screening

Submitting a short report (approx. 1000 letters in Japanese or 500 words in English) and taking an interview. The report must be sent by email to hagi@meiji.ac.jp until two days before the day of the interview. The topic for the short report is: The relation between (a) the term “performance”, (b) your current interests and (c) your future vision after graduation. 【注意 Notice】作文を送る際のメールの書かれ方も選考のための材料です。Please note that the style of your email will also be taken into consideration when submitting your report.

6. 演習入室までに学習してほしいこと Required activity that will have been done before the start of the seminar

Please read at least three books related to the topic “performance”. Every time you finish one book, please report about it (author, title, year of publication, publisher, content and your own opinion) by email (hagi@meiji.ac.jp).

7. その他 Others

A three-days-seminar will be held during the summer vacation in one of the seminar houses of Meiji University. Students will also occasionally watch (stage) performances during the semester.

20 姫野 伴子 教授

1. 演習のテーマ

日本語文法研究

外国語として日本語を学ぶ人にとって、日本語の文法や運用のしくみの何が難しく、それはどうしてなのか考えます。さらに、実際に使用されている日本語初級教科書の特徴を調べて、導入・練習方法や副教材について考えたり、教材を試作したりします。

言語現象の背後にある一般原則を見つけ出す力を身に付け、世界の言葉と日本語をよく知ることで、日本語を的確に運用・説明・教育できる人を目指します。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

日本語文法を考えるための基礎的枠組みを学んだ後、何種類かの日本語初級教科書を取り上げて、各参加者が担当する1冊を決め、各教科書の特徴を調べます。その教科書を用いて教えるとしたら、どのように導入・練習すれば効果的か、どのような副教材が必要かなどについても考えます。

<4年次>

日本語文法・日本語教育にかかわる問題の中から各自が選んだテーマについて、先行文献の調査、データの収集・分析・考察を行い、最終的には論文にまとめていきます。また、履修者の希望によっては、共同で日本語教材作成に取り組むこともできます。授業では、各自が研究の進展を順番に報告し、全員で意見交換します。

(2) ゼミ論の有無

ゼミ論または日本語教材の作成

(3) 評価方法

<3年次> 出席と議論への参加(30%)、発表(30%)、レポート(40%)。

<4年次> 出席と議論への参加(20%)、発表(20%)、論文または教材作成(60%)。

3. 使用テキスト

授業時に指示します。

4. 応募学生に望むこと

日本語文法を考えること、外国語として日本語を教えることに関心を持ち、積極的に議論に参加する学生、日々自分が使う日本語に注意を払い、そのしくみを発見しようとする学生を望みます。

5. 選考方法

入室希望理由書(詳細は個別ガイダンスの際に指示します。)

6. 演習入室までに学習してほしいこと

学部開設科目の「日本語教育学(文法)」「日本語教育学(語彙)」「日本語教育学(音声)」「日本語学」を履修しておくことが望ましい(同時履修も可)。

7. その他

3・4年生合同でゼミ合宿を行う予定です。時期と期間は相談の上、決定します。

21 廣森 友人 教授

1. 演習のテーマ

第二言語習得の心理学：外国語の学習を科学する

外国語学習の成功や失敗に影響を与える学習者要因（動機づけ、学習方法、学習スタイルなど）について研究します。自らの学習経験を振り返りながら、より効果的な外国語学習や外国語指導の在り方について、具体的な考えを持てるようになることを目標とします。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

4年次のゼミ論（卒論）執筆を見据えて、演習を進める上での基礎となる3つの力（①英語力、②研究力、③プレゼン力）を強化します。「①英語力」は英語文献の読解、英語でのプレゼンに加え、英語試験の受験を通じて、1-2年次に身につけた英語の基礎力をさらに進化させます。「②研究力」は興味・関心のあるトピックを研究課題として具体化させ、調査計画の立案・実行・評価といったプロセスをグループ単位で経験することにより、研究の基礎力を身につけます。「③プレゼン力」は毎授業で行われる3分プレゼン、事前に分担した文献内容のプレゼン、ゼミナール大会への参加（オプション）などにより、伝えたいことを簡潔に分かりやすく表現できる能力を身につけます。

<4年次>

3年次に学んだことを踏まえ、各自が個人単位で興味・関心のあるトピックについてゼミ論（卒論）を執筆します。授業では、定期的に各自の進捗状況を報告しあい、他のゼミ生や教員、院生からのフィードバックを受けます。

(2) ゼミ論の有無

有り

(3) 評価方法

出席・議論への参加状況（25%）、発表（25%）、レポート（3年次）or ゼミ論（4年次）（50%）

3. 使用テキスト

履修者の興味・関心を踏まえて決定します。

4. 応募学生に望むこと

- ・研究室のウェブサイト（<http://hiromori-lab.com/>）を事前に確認し、自分がやりたいことと関連があるかどうかを十分に見極めた上で応募してください。
- ・私の専門は動機づけ（やる気）です。やる気は伝染します。やる気に満ちたゼミ生を歓迎・応援します。また、（英語を含めた）勉強好きな学生、グループでの作業が好きな学生、自分に自信をつけたい学生も歓迎・応援します。

5. 選考方法

小論文（テーマは「このゼミを希望する理由、このゼミで勉強したいこと」と面接。入室試験では、志望動機に基づいた面接を行います。詳細は、個別ガイダンスの際に指示します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

演習担当教員の学教科目「心理と言語 A・B」（ならびに関連科目「英語学」「応用言語学」「言語と文化」など）を履修しておいてほしい（あるいは、ゼミと同時に履修してほしい）と考えています。

7. その他

長期休業中にはゼミ合宿を行う予定です。その他、BBQ、誕生会、紅葉を愛でる会など、学生の自主性と教員の思いつきによって各種行事・イベントがあります。



22 藤本 由香里 教授

1. 演習のテーマ

マンガ（サブカルチャー）／ジェンダー／表現／社会

「クール・ジャパン」＝日本のソフトパワーとはいったいどんな特性を持ち、世界の中でどのような現状にあるのでしょうか？ また、歴史的にはどう発展してきて、それを生かしていくためには、どういうことが必要なのでしょうか？ この演習では、「大衆」によって支えられるがゆえに、その意識や社会の変化を反映しやすいサブカルチャーを題材に、その表現のあり方と社会意識や文化との関係を探っていきます。「文化」と「市場」両方に目を向けるところに特色があり、具体的には、日本のサブカルチャーの特性、歴史的な発展過程、海外市場をどう見るか、ジェンダーと表現などについて関連文献を読み、ディスカッションすることでそれぞれのテーマについて考えを深めていきます。その中で4年次の卒論のテーマをそれぞれが見つけ出し、調査→発表→ディスカッション→フィードバックによって、自分なりに何か「見えてくる」ときの喜びに出会ってもらいたいと思います。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

春学期はこれまで、「日本の戦後とサブカルチャー」を縦軸に、「日本のサブカルチャーの特性」と変わりゆく「サブカルチャーと海外市場」、すなわち“クールジャパン再考”を横軸にディスカッションを行ってきました。戦後のアメリカ文化の急速な輸入、コンテンツ市場におけるアメリカの圧倒的優位性、その中での<アジア>諸国との関係、日本のサブカルチャーがアメリカを下敷きにしながら独自の発展をとげていく過程……。今年もその問題意識は継続しますが、同時に、応募者の関心に応じて読む文献やテーマを検討して行きたいと思います。秋学期は具体的な<仕事>と国際性、あるいは<現代史>について、マンガ・アニメ・小説・ドラマなどのコンテンツをベースに発表するといったことを考えています。

<4年次>

4年次においては卒業論文の準備、執筆がメインになりますが、ゼミ生の興味をにらみながら、文献講読や個人発表、グループ発表なども並行して行っていくつもりです。合宿や課外活動等については3年次のゼミ生と一緒にすることもあります。

(2) ゼミ論の有無

有。2万字以上の卒業論文をまとめ、ゼミ全体の卒論集を制作する予定です。

(3) 評価方法

発表（55%）、ディスカッションへの貢献度（35%）、その他（10%）。

3. 使用テキスト

ジョゼフ・ナイ『ソフトパワー』、東浩紀『動物化するポストモダン』『ゲーム的リアリズムの誕生』、飯田一史『ウェブ小説の衝撃』、クリス・アンダーソン『フリー』、落合陽一『魔法の世紀』、大塚英志『物語消滅論』、ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』など。

4. 応募学生に望むこと

ゼミは皆さんが作るものです。ディスカッション等、ぜひ積極的な参加を希望します。

5. 選考方法

志望動機書と面接。詳しいことは個別ガイダンスで説明します。

6 ゼミ入室までに学んでおいてほしいこと

『漫画文化論』AB は入室までに受講しておくことが望ましい。必修等でどうしても取れない場合は、入室後すみやかに履修すること。

7 その他

2泊3日程度でゼミ合宿を行います。3年次は京都国際マンガミュージアムの予定です。

23 眞嶋 亜有 Ayu Majima 専任講師

1. 演習のテーマ

「グローバル人材」とは、そして「国際日本」とは何でしょうか？日本のグローバル化を考えることは多角的視点から「日本とはなにか」「日本人とはなにか」を考えることです。本ゼミでは、日本のグローバル化を、家族や人間関係、ジェンダーやアイデンティティ、身体文化や生活文化、日本文化の世界発信や異文化受容のビジネスモデル、また個性や多様性をめぐる様々な社会問題など、身近な切り口から、比較文化的考察を通じて多角的に分析していくことで、グローバル社会を生き抜く知性となる複眼的視座を養っていきます。個と多様性が益々重視されていく現代、また2020年東京オリンピックや超少子高齢化を迎え様々な挑戦が日本に求められている現代、国籍・人種・性差を問わず互いの感性を尊重しながら、私たちが世界市民としてできることとはなにか、日本が世界に貢献しうる可能性とはなにか、そしてその豊かさとは如何なるものかを共に学び、考えていきましょう。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>基礎文献講読や、卒論テーマとなりうる各自の関心に基づき発表し議論し合っていくことで、多角的な思考能力とプレゼン能力、そして対話力を鍛えます。

<4年次>卒論提出に向けて、定期的に発表し、皆で議論し、完成度を高めていきます。

(2) **ゼミ論の有無** あり（卒業課題として形式に希望等ある場合は事前相談のうえ検討）

(3) 評価方法

<3年次> 出席（30%）、議論含むゼミ貢献度（30%）、発表と学期末エッセイ（40%）

<4年次> 出席（30%就活状況により相談）、議論含むゼミ貢献度、卒論と発表（40%）

3. 使用テキスト（あくまで参考）

眞嶋亜有『「肌色」の憂鬱—近代日本の人種体験』（中公叢書、2014年）

眞嶋亜有「水虫—近現代日本の栄光とその痕跡」園田英弘編『逆欠如の日本生活文化—日本にあるものは世界にあるか』（思文閣出版、2005年）ほか、そのつど指示します。

4. 応募学生に望むこと

私たちは様々な人々との交流や対話を通じて、自分と社会と世界を知る機会を得ています。よって知的好奇心に溢れ、人の意見とその多様性を尊重したうえで、自分の意見を共有し、皆と学び合う意志のある学生を希望します。さらに本ゼミでは、他学部との合同ゼミや発表会、また国内外の第一線で活躍するゲストを複数お招きするほか、旅行や各種イベント等も予定しますので、外部の方々とも礼節をもって接することができる学生を望みます。

5. 選考方法 作文等と面接：詳細説明するため個別ガイダンスは要出席のこと（留学中の入室希望者は作文等とスカイプ面接を行うので指定のメールアドレスに早めに事前連絡のこと）※作文等の〆切は入室試験日の約一週間前に設ける予定です。

6. 演習入室までに学習してほしいこと 日々の生活で何気なく抱く問いや関心は将来の重要な道標になるので、その感性を大切に日頃から多くの本を読んで下さい。また下記リンクにあるエッセイは必ず読んでおいてください（大学ホームページ内の教員ページ内）。
<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~majima/170315ryoomoi.pdf>

7. その他 ゼミ生による個別ガイダンスではゼミ活動詳細の紹介説明もありますので、そちらにも是非出席下さい。皆さんと共に学ぶことを楽しみにしています。

24 溝辺 泰雄 准教授

1. 演習のテーマ

2018年度の演習は、国内外の「旅」を通して、世界と日本を理解することを目指します。演習の参加者が「サハラ以南アフリカ」を含む世界各地へそれぞれ個別に赴き、そこで体験した内容を、プレゼンテーションやディスカッションなどを通して互いに交換しあうだけでなく、明大祭等のイベントでの報告や旅行記の執筆・出版などを通して、広く一般の方々とも共有する機会も設けます。また、自分たちの「旅」だけでなく、これまでに世界中で出版されてきた「サハラ以南アフリカ」に関するさまざまな旅行記を読み、異文化を体験・理解することの面白さだけでなく、そこで生じる誤解や偏見などの問題点についても深く考えていく予定です。

2. 演習内容

(1) 演習の進め方

11月の成果報告と2月初旬の旅行記の出版に向けて、年度の始めにテーマや日程を決め、それに向けて皆で役割分担をしながら活動を進めます。2017年度の8期生の活動は次のリンクから確認できます：https://www.instagram.com/meiji_africa_seminar_8th/

*1年間の主な活動は以下のとおりです：

- 料理会(4月と12月頃)：自分たちでテーマを決め、料理でアフリカを旅します
- 学外実習(6~7月頃もしくは12月頃)：地産地消をテーマに、日本のどこかに全員で行き、現地で作ります(2018年の訪問先は、4月に皆で相談して決めます)
- 明大祭への出展(11月初旬)：教室展示などの形で研究や活動の成果を発表します
- 研究活動発表会(1月か2月)：アフリカ料理店で1年間の活動報告会をおこないます
- 旅行記の作成と出版(4月~2月)：「旅」を通して得た学びを1冊の冊子にまとめます

なお、開発学や政治学、歴史学などの視点から「サハラ以南アフリカ」が抱える諸問題について本格的に学術研究をされたい方のために、任意参加の<論文ゼミ(アフリカ研究会)>も設けています(この論文ゼミへの参加は全員必須ではありません)。きちんとした学術論文作成に向けて、個別研究従事する学生たちと教員の間で綿密に議論と重ねて考察力・分析力を養っていきます。

(2) 卒業研究

希望者のみ：芸術活動やボランティア活動など論文以外の形式での卒業研究でも構いません。これまでは、アフリカ滞在の写真集の作成や創作衣装の制作と発表会、バンドを組んでオリジナル楽曲の発表などの形式で卒業研究をおこなったメンバーもいます。卒業論文を執筆する場合は、通常の演習とは別に設ける「論文ゼミ(アフリカ研究会)」において、研究課題の設定から調査・研究、論文の作成まで時間をかけて丁寧に作業を進めていきます。研究のテーマは「サハラ以南アフリカ」に関する内容であれば、衣食住から歴史文化、政治経済など自分の関心に応じて設定することが可能です。過去の卒業研究のテーマについては次のリンクから確認できます：<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~mwizobe/publication.html>

(3) 評価方法

演習活動への積極性に基づき評価します。

3. 使用テキスト

入室決定後にお伝えします。

4. 応募学生に望むこと

参加の条件は、国内外を問わず「旅」への強い関心と世界のさまざまな課題を探求し、学ぶ意欲の有無です。また、可能であれば、個人旅行(もしくは留学・スタディーツアー・インターンシップ)などの機会を利用してサハラ以南アフリカでの生活を体験してもらいたいと考えています(ただし、必須課題ではありません)。これまでに20名以上の学生が、ウガンダ、ルワンダ、ケニア、タンザニア、南アフリカ、ガーナ、セネガル、エチオピア、ナイジェリア、ボツワナ、ジンバブウェなどの国々を訪れています。

5. 選考方法

書類審査と面接で選抜します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

アフリカにはこだわらず、まずは自分の関心のあることをとことん勉強しておいてください。

25 美濃部 仁 教授

1. 演習のテーマ

哲学。(このゼミは、参加者がそれぞれ自分の関心にしたいが、あるいは自分の関心をさぐりつつ、自分を取りまく世界や自分自身の中に問題とすべきことを見出し、それをその根源にまで立ち戻って明らかにする——それが哲学ということですが——ということを中心におこなわれます。その準備として全員で一冊の本を読む、というようなこともしています。どのような問題にどのように取り組むかは各人の自由に任せられていますが、私がこれまで主に勉強してきたのは、哲学、宗教学、倫理学等ですので、専門家として助言ができる領域はそのあたりに限られています。)

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

この授業は、参加者の哲学的関心に沿う形で進めます。ですから、予め「進め方」を細かく決めてはいませんが、ほぼ次のようなことを考えています。

<3年次>

春学期のゼミの進め方については、最初の回に皆で相談して決めます。皆で少し難しい本を一冊読むというやり方もありますし、毎回参加者全員が、その週に本を読むなどして気づいたこと、考えたことを発表し、それについて意見交換をするというやり方もあります。夏休みまでに、自分の勉強のテーマを見つけることを目指します。

秋学期には、自分の考えを組み立て、少しまとまった発表をする機会を設ける予定です。

<4年次>

論文の構成を考えたり、細部について議論したりしながら、勉強の成果をまとめるような形で授業を進める予定です。

(2) ゼミ論の有無

有り。

(3) 評価方法

<3年次> 授業での発表・発言によって評価します。

<4年次> 授業での発表・発言と論文によって評価します。

3. 使用テキスト

こちらから予め指定するものではありません。

4. 応募学生に望むこと

自分自身で問題を見出し、自分自身で考えるようにしてください。

できるだけ二つ以上の外国語に親しんでほしいと思っています。

5. 選考方法

面接。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

できれば私が担当している講義「宗教と哲学」を履修しておいてください。

7. その他

とくにありません。

26 宮本 大人 准教授

1. 演習のテーマ

「メディアと大衆文化／サブカルチャー」

大衆文化（マス・カルチャー／ポピュラー・カルチャー）やサブカルチャーの領域の様々な問題を、そのメディアとの関わりにおいて考えます。マンガ、アニメ、テレビ番組、広告、お笑い、ポピュラー音楽などの表現ジャンルに限らず、ファミリーレストランやコンビニなどの大衆的な生活・消費文化、さらにはオリンピックやプロスポーツの大会などの、いわゆるメディア・イベントも視野に入れます。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

3～5名のグループで共通の課題に取り組むグループ発表や、受講者それぞれの関心に即した個人発表を中心とする。これを通じて、発表を準備するための参考文献・資料の探し方や分析の方法論を学び、多少難解な学術論文も読みこなせる読解力、効果的なプレゼンテーションの技法、6000字から10000字程度のある程度まとまった分量の論文の作成能力、活発なディスカッションを行うコミュニケーション能力などを、実践的に培っていく。具体的なスケジュールは受講者数や受講者それぞれの関心の傾向を踏まえた上で決める。夏休みに3泊4日のゼミ旅行（参加必須、関西方面の予定）を行う。

<4年次>

3年次の終わりまでに卒業論文のテーマを設定し、4年次においてはその準備、執筆を進めていく。もちろん、グループ発表、個人発表、文献講読等、ゼミ全体での活動は3年次同様、継続する。詳しいスケジュールは当該年度の初めまでに決める。夏休みにセミナーハウスで卒論合宿を行う予定。課外活動等については3年次のゼミ生と一緒にを行う。

(2) ゼミ論の有無

有り。20000字以上の卒業論文をまとめ、ゼミ全体の卒論集を制作し、学外でも販売する。

(3) 評価方法

発表（30％）、ディスカッションへの貢献度（30％）、期末の課題（30％）、平常点（10％）。

3. 使用テキスト

そのつど指示します。

4. 応募学生に望むこと

ゼミは、部活のようなものです。担当教員はコーチに過ぎず、実際にplayするのはみなさん自身です。このゼミがみなさんにとって充実したものになるためには、みなさん自身の積極的な参加が必要です。

幅広い題材を対象にしてよいゼミですので、集まる人の趣味やライフスタイルも様々だと思います。したがって、「自分と違うタイプの人」と付き合う意欲を持っている人を求めます。いわゆる「社交的な」人である必要はありません。人とのコミュニケーションが苦手でも、とにかく自分の殻に閉じこもらない意欲と努力を見せてほしいということです。

5. 選考方法

事前提出の課題と面接。詳しいことは個別ガイダンスで説明するので必ず出席すること。個別ガイダンスに出席していない場合は選考を受けられない。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。

7. その他

27 森川 嘉一郎 准教授

1. 演習のテーマ

マンガ・アニメ・ゲーム／デザイン／都市

マンガ・アニメ・ゲームおよびそれらに近接するポップカルチャー、デザイン、そして現代都市に関するさまざまな調査・研究を行う。自分で創作的な「作品」を制作し、その公表や流通を成果とするような研究も受け入れる。これまで、マンガ同人誌、ショートアニメ、ゲーム、音楽 CD、スマートフォンのアプリ、同人グッズなどの制作・頒布、さらには展覧会やイベントの企画・実施など、さまざまなことに取り組む学生がいた。また、英語による発表や論文、作品制作も可とする。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

春学期は各々の関心領域に沿って、基礎的な文献の洗い出しや、さまざまな調査法の試行を行い、発表とディスカッションを繰り返しながらテーマ設定や資料の採取源、達成目標を明確にした研究計画を作り上げる。秋学期はフィールドワークや取材に重心を移す。各期末には、経過を冊子状の提出物にまとめる。就職を希望する業種によっては、就職活動のポートフォリオの一部となるように作成してもよい。

<4年次>

3年次にまとめた成果と経験を下敷きにしなが、研究計画を再構築し、研究の範囲に歴史的・社会的な奥行きを与え、ゼミ以外の場でも読まれるに足るような「本」にする。併行して、関連分野の古典的な書物の読書体験を積むための読書会を行っていく。

(2) ゼミ論の有無

有り

各々の研究を自分の実績として、将来的な自己プレゼンテーションの材料として活用しやすいように、研究の成果を各期末にそれぞれ1冊の本に仕上げる（創作的な「作品」を制作する場合はそれに合った形態でもよい）。

(3) 評価方法

発表（40%）、提出物（40%）、平常点（20%）。

3. 使用テキスト

各々のテーマに沿って適宜指示する。

4. 応募学生に望むこと

ゼミのホームページ（<http://edu.a.la9.jp/>）を見ておくこと。研究したい事柄が、応募の時点である程度思い描けていることが望ましい（後から変更してもよい）。

5. 選考方法

作文と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示する）。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

ゼミで研究してみたいと考えているトピックについて、試しに関連する文献を探し、読んでみることが望ましい。作品を作りたいと考えている人は、試作をはじめてほしい。

7. その他

フィールドワークや取材を体験するための校外実習を適宜開催することがある。

28 師井 勇一 特任講師

1. 演習のテーマ Theme

Engaging in Peace and Social Justice in—and from—Tokyo

Issues of peace and social justice are intimately connected, for what kind of peace would it be if it does not include social justice? (“Negative peace,” as Martin Luther King, Jr. says.) The aim of this seminar is to deepen your understanding of issues of peace and justice today by engaging in them. The engagement involves practice on the field, research in the library, and discussion in class. By participating in activities of a local NGO or civic organization (or creating your own), multinational citizens *together* can help create and promote peace and justice in Tokyo—and from Tokyo. Think globally, act locally, and learn broadly.

2. 授業内容 Activities

(1) 授業の進め方 Proceeding

Each classroom session will be a time for discussion—that is, you will report weekly progress of your own project outside the classroom and get a feedback from your peers and the instructor. Extra-curricular activities besides the regular session will be involved; it’s necessary to talk in person, observe directly, participate and engage in a local NGO or civic organization of your choice.

<3年次 3rd Year>

Learning in an organization outside campus; a weekly oral report of your findings; and a presentation and a term paper each semester.

<4年次 4th Year>

While learning with an organization, will spend more time on writing a thesis.

(2) ゼミ論の有無 Thesis

A graduation thesis is required.

(3) 評価方法 Evaluation

3rd Year: Participation 20%; Presentations 30%; Papers 50%

4th Year: Presentations 30%; Thesis 70%

3. 使用テキスト Textbook

Relevant literature will be introduced in class.

4. 応募学生に望むこと To Prospective Students

Any students—on English Track or not, international or Japanese—who are interested in issues of peace and social justice are welcome. You are expected to take an initiative on your own independent study. This seminar will use English as an “official” language.

5. 選考方法 Screening

There will be an essay and an interview.

6. 演習入室までに学習してほしいこと Preparations

It would be nice to have taken one (or more?) of the following courses: Peace Studies, Sociology A or B, or Liberal Arts Seminar (Peace in Action)—in English or in Japanese.

7. その他 Others

There will be a field trip to Okinawa in August or March; other events and trips will be planned in class.

29 山脇 啓造 教授

1. 演習のテーマ

多文化共生社会のまちづくり

グローバル化や少子高齢化が進展する中、日本を含む先進諸国にとって、国籍や民族などの異なる人々が共に生きる多文化共生社会の形成は喫緊の課題といえます。多文化共生の意義を学び、ローカルな課題に取り組みながら、地球時代に生きるためのグローバルな素養を身につけます。具体的には、2020年の東京五輪を控え、多文化共生への関心を高める東京都や中野区などで、行政や企業、NPOなどと連携して、多文化共生をテーマにした調査研究やイベントを実施します。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次> 最初の1カ月に、多文化共生に関する文献を集中的に読みます。その後、東京都や中野区などと連携して、多文化共生をテーマにした調査研究やイベントを実施します。

<4年次> 多文化共生をテーマにした調査研究やイベントを実施します。

(2) ゼミ論の有無

任意（書く場合は8000字程度）。

(3) 評価方法

調査研究やイベントの企画運営など、ゼミ活動への貢献を総合的に評価。

3. 使用テキスト

テキストは特にありません。英語の文献も使います。

4. 応募学生に望むこと

①討論：毎回のゼミで積極的に発言できる人。②行動：授業時間外にも、自発的にまち歩きをするなど、フットワークの軽い人。③共生：様々な文化背景を持った人。留学生（ET生を含む）の参加を歓迎します。なお、毎回の出席が原則として求められます。授業時間外にイベントを実施する場合がありますが、サークルやアルバイトを理由とした欠席は原則として認めません。

5. 選考方法

志望理由書（以下のサイトからダウンロードし、面接日の2日前までに提出してください：<http://intercultural.c.ooco.jp/index.php/vision/univ/seminar>）と面接。選考のポイントは、問題意識、論理的思考力、コミュニケーション力、勤勉性、協調性、学業成績、英語力です。（留学中の学生も原則としてスカイプで面接します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと

学部設置科目の「多文化共生論」履修者を優先します。

7. その他

入室希望者は、必ず全体ガイダンスと個別ガイダンスに参加してください。4月下旬に国内合宿、9月上旬に海外合宿を行う予定です。秋学期に開催するイベントは、3年と4年が合同で行います。そのため、ゼミの時間が2コマ連続となる場合があります。

30 横田 雅弘 教授

1. 演習のテーマ

「ヒューマンライブラリーの実施とライフストーリーの執筆」

2000年にデンマークで始まったヒューマンライブラリーは、マイノリティの方々が集まり、「本」として貸し出され、「読者」がその人生の物語に耳を傾けるといって世界70か国以上で実施されているイベントである。3年演習では、その理念の学習、交渉、広報、資金調達、当日の運営等全てを行う。4年演習では、マイノリティの方を対象に、社会学のライフストーリー・インタビューという手法で個人的に対話し、聞き取り、その方の人生の物語を書き上げる。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

ヒューマンライブラリーを中野キャンパスで実施する。この催しの詳細についてはHP (<http://humanlibrary.org/what-is-the-living-library.html>) を参照願いたい。演習では、偏見についての基本概念、ヒューマンライブラリーの趣旨、歴史、開催の要領などを学び、実際にさまざまな「本」の候補者に連絡をとり、説明し、参加の同意を得る。一方、読者への広報活動や企業訪問などによるファンドレイジング活動を行い、年末に実施する。実施後はその効果の測定と自らの学びの振り返りを行う。

<4年次>

3年次のヒューマンライブラリー実施の経験を通して学んだ多様な人々との出会いを、4年次ではライフストーリー(インタビュー)という形で記述する。ライフストーリーとは、語り手が聞き手との対話を通して人生を振り返り、紡ぎ出す人生の物語であり、社会学の質的研究法として注目されている。学生は聞き手として自分が対象と決めた語り手の声に耳を傾け、そのインタビュー記録を書き起こし(一次資料)、それをもとに語り手の紡ぐ物語を記述する。ここに生まれた作品がゼミ論文となる。

(2) ゼミ論の有無

有り

(3) 評価方法

<3年次> 発表(30%)、平常点(30%)、レポート(40%)。全回出席は大原則。

<4年次> 発表(30%)、論文(70%)。全回出席は大原則。

3. 使用テキスト

① HP、②これまでの実施報告書、③『多文化社会の偏見・差別～形成のメカニズムと低減のための教育』加賀美・横田・坪井・工藤編著、明石書店、1-225、2012。④『ヒューマンライブラリー事始め』駒澤大学社会学科坪井ゼミ編著、人間の科学社、2012。⑤『インタビューの社会学～ライフストーリーの聞き方』桜井厚著、せりか書房、2002。

4. 応募学生に望むこと

研究テーマに対する真摯な関心と熱意があり、研究の方法論をしっかりと学ぶ必要性を認識し、プレゼン力をつける意欲を有し、それをもとに自らの学部時代の宝物としてゼミ論文を書き上げるという高い意識と誠実な気持ちと強い意欲のある学生を求める。

5. 選考方法

志望動機等についての書類と面接(詳細は個別ガイダンスの際に指示する)

6. 演習入室までに学習してほしいこと

ヒューマンライブラリーについてHPや上記テキストなどでその概要を掴んで欲しい。

7. その他

ゼミ合宿を予定(時期と期間は授業開始後に相談の上決定)

31 渡 浩一 教授

1. 演習のテーマ

「ニッポンの歴史と文化」をテーマとします。

日本の歴史と文化を国際日本学的な視野から見つめ直し、日本・日本人・日本文化について考えてみたいと思います。

ちなみに、渡の主な関心領域は、日本人の信仰と文化、外国人の見た日本・日本人、外来文化の日本的変容、日欧文化交流史で、時代的には中世～近代（明治）と広く関心があります。研究のキーワードは江戸文化・日本人論・日本文化論・死生観・冥界観・日本仏教・家制度・唱導・地蔵・地獄・子ども・南蛮文化・キリシタン・イソップ寓話・阿蘭陀人などです。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

春学期も秋学期もテキストを議論しながら輪読していきます。必要に応じて、議論を踏まえた発表・討論も随時行います。

<4年次>

春学期は、原則として3年次の続きをやりながら、同時に、演習テーマに沿ったゼミ論の構想を練り上げていってもらいます。秋学期は、ゼミ論の中間報告をしてもらいます。

(2) ゼミ論の有無

20,000字程度の論文を提出してもらいたいと考えています。

(3) 評価方法

<3年次> テキスト読解・発表（50%） 発言回数・内容（50%）

<4年次春学期> テキスト読解・発表（50%） 発言回数・内容（50%）

<4年次秋学期> 論文（80%） 発言回数・内容（20%）

3. 使用テキスト

日本の歴史と文化について考えるのに有用と思われる文献を学生と相談してテキストとして選びたいと思います。

4. 応募学生に望むこと

「自ら調べ、自ら学ぶ」という姿勢で研究に取り組んでほしいと思います。

5. 選考方法

一応、確認のための面接は実施します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特にありませんが、できれば基本的な日本史の知識は身につけていることが望ましいです。

7. その他

2年続きで応募者はなく、現在ゼミ生はいません。一人でも構わないという人は応募してください。

32 Ryan Ward 専任講師

※この演習は、学生の希望があれば英語でも指導します。

1. 演習のテーマ

「死」の日本宗教史

本ゼミの目的は、多角的な（歴史学的、人類学的、美術学的、宗教学的な）視点を用いて、古代から現代に渡る、日本の宗教史における「死」の意味合いとその歴史の変遷を共に考えることにある。また、日本に限定することなく、なるべく洋の東西（東アジア、インド、中東、ヨーロッパ、など）の宗教史についても考察範囲とし、より比較的な検討を行うように努めていきたい。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

進行形式としては、日本の宗教史と「死」の基礎知識を学びつつ、事前に学生諸君に読んでおいてもらうべき学術論文を担当学生に簡単な要約をしてもらった上、ディスカッションをする。

<4年次>

同上

(2) ゼミ論の有無

有り

(3) 評価方法

<3年次> 平常点（40%）、発表（30%）、レポート（30%）で行う。

<4年次> 平常点（20%）、発表（20%）、論文（60%）で行う。

3. 使用テキスト

プリントを配布する。

4. 応募学生に望むこと

積極的にゼミに参加する学生を望みます。

5. 選考方法

面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。

7. その他

ゼミ合宿（場所検討中）を行う予定です。

4. 演習入室試験申込手続きについて

入室試験（一次・二次）の申し込みは、Oh-o! Meiji ポータルページに配信されるアンケートを利用して行います。申込手続き方法は以下のとおりです。

- 1 「Oh-o! Meiji システム」(https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index) のポータルページへログインしてください。Oh-o! Meiji システムのポータルページへのログインには、共通認証パスワードが必要になります。忘れてしまった場合は速やかに事務室窓口にて再発行の手続きをしてください。電話による再発行の問い合わせは受けません。
- 2 自身のポータルページが表示されます。受付期間になったら、アンケート「2018年度演習入室試験一次申込手続き」を選択してください。

The screenshot shows the Oh-o! Meiji portal homepage. At the top, there are navigation tabs: HOME, クラスウェブ, 授業検索, グループ, and ポートフォリオ. Below the navigation, there are several sections: a calendar for June 2017, a '個人宛・所属事務室からのお知らせ' (Notice from individual/department) section with a link to '2017/06/09 海外トップユニバーシティ留学奨励助成金について', a '授業に関するお知らせ' (Notice regarding classes) section, and a 'その他大学からのお知らせ' (Notice from other universities) section. On the right side, there is a 'Meiji Mail' section and an 'RSSリーダー' (RSS Reader) section. The 'アンケート' (Survey) section is circled in red, showing a survey titled '2018年度演習入室試験一次申込手続き' (2018 Degree Practice Room Exam First Application Procedure) with a 'NEW' tag and a response deadline of 2017/07/21.

- 3 「2018年度演習入室試験一次申込手続き」の画面が表示されますので、必要情報を全て入力してください。

The screenshot shows the '2018年度演習入室試験一次申込手続き' (2018 Degree Practice Room Exam First Application Procedure) survey form. The form includes the following fields:

- 回答期間: [Redacted]
- 記名・無記名: 記名式アンケート
- 回答の修正: 可
- 氏名: 国際 一郎 (191A120001)
- 登録部署: 中野教務事務室
- 設問1: 学生番号を入力してください。[必須]
- 設問2: 学年を選択してください。[必須]

- 4 すべて入力したら、「確認画面に進む」を選択してください。※まだ申込完了ではありません。

○ 15 田中 牧郎
○ 16 旦 敬介
○ 17 長尾 進
○ 18 野村 清
○ 19 萩原 健
○ 20 長谷川 文雄
○ 21 姫野 伴子
○ 22 廣森 友人
○ 23 眞嶋 亜有
○ 24 満辺 泰雄
○ 25 美濃部 仁
○ 26 宮本 大人
○ 27 森川 嘉一郎
● 28 山脇 啓造
○ 29 横田 雅弘
○ 30 吉田 悦志
○ 31 渡 浩一
○ 32 Ryan Ward

上記内容でよろしければ「確認画面に進む」ボタンをクリックして次へ進んでください。

保存せずに前の画面に戻る 確認画面に進む

- 5 入力内容の確認画面が表示されますので、必ず入力内容を再度、確認してください。問題がなければ「回答する」をクリックしてください。入力内容に修正を加える場合は「前に戻る」を選択し、修正してください。

080-5343-8045

設問8 よく使用するE-Mailアドレスを入力してください。[必須]
999@mics.meiji.ac.jp

設問9 入室を希望する演習を1つ選択してください。[必須]
28 山脇 啓造

← 前に戻る

回答する

入力内容確認画面を確認後、「回答する」をクリックすれば、申込完了です。

※申込内容は期間内であれば修正することができます。

※上記は一次申込手続きを例に挙げましたが、二次申込手続きも同様の手続きとなります。

※三次試験については申込方法が異なります。二次試験合格発表時に発表される三次募集選考試験の指示に従ってください。

2018 年度 国際日本学部演習案内

2017 年 10 月 1 日

編集・発行

印刷・発行

明治大学国際日本学部
東京都中野区中野 4-21-1

印刷所

株式会社 三響社

